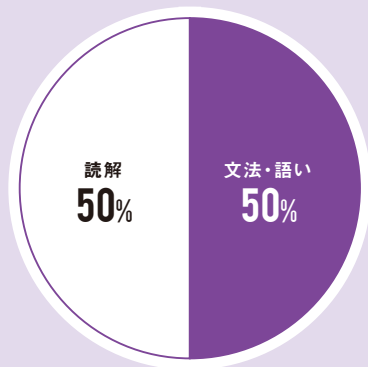


文法・語いの幅広い知識と運用力が問われる。
読解問題は全体要旨を把握する力を磨こう。

出題分野

✓ **文法・語いの幅広い知識と精読力が必須!読解問題の攻略が合否のカギ!**

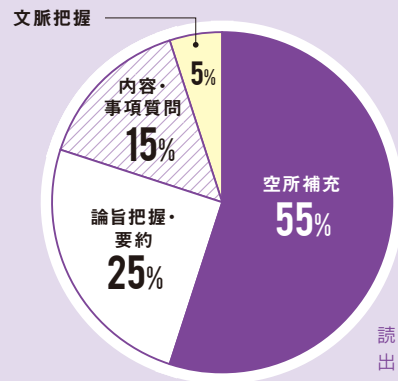
大問5題、小問40問で、読解問題と文法・語い問題がバランスよく出題されている。大問Ⅰは約470語、大問Ⅱは約230語の評論文。身近な題材で読みやすく、語いも教科書レベル。ただし大問Ⅱではグラフと表が示され、それらを英文と合わせて理解して問題を解く情報処理力も求められる。大問Ⅲは基礎～標準レベルの文法・語い問題。動詞の用法からイディオムの活用まで幅広い領域・単元から出題され、接続詞や関係詞などを文に合わせて適切に使えるかなどの運用力が問われる。大問Ⅳと大問Ⅴは会話文形式の読解問題だ。制限時間は60分。5大問・全40問を解ききるために、複数年分の過去問題を解いて自分のペースを把握し、時間配分の対策をしっかりと練っておこう。



出題形式

✓ **1文の構成から全体要旨まで把握する力が求められる!**

全問マーク式。大問Ⅰの評論文は英文タイトル選択、内容一致や空所補充など5問。大問Ⅱでは短い評論文とグラフ・表を合わせて読み取る内容・事項質問など5問。大問Ⅰ・Ⅱとも、特定の段落と全体要旨を問う出題があり、空所前後の文脈だけでなく、全体要旨を把握する丁寧な精読力が求められる。教科書や短めの英文を活用し、段落要旨や全体要旨を自分でまとめる演習が効果的だ。大問Ⅲは文法・語いの空所補充問題。同じ問題集を繰り返し解いて正確な知識を身につけておこう。大問ⅣとⅤは会話文形式。大問Ⅳは空所への適文選択が5問、大問Ⅴは応答文選択が5問出題された。空所前後の文脈の流れ、特に疑問詞を含む質疑部分を把握できれば正答へたどり着きやすい。



読解問題の出題形式

北陸大学 英語の攻略法

01 文法・語いは、全単元の例文を徹底演習、運用力を鍛える!

文法・語い問題では、品詞の基礎知識から、接続詞や熟語・構文を文脈に応じて活用する運用力まで問われる。教科書や文法書の例文で使い方を押さえ、問題集の反復演習で広い範囲の知識を確実に培おう。辞書の例文や使い方を参考に、英作文に取り組むのもオススメだ。

02 文脈のつながりから、全体要旨まで深く丁寧に理解できる力を養おう!

大問ⅠやⅡでは、特定段落と全体の要旨が問われる。文のつながりや内容の流れに注意しつつ、各段落のキーワードや重要部分に下線を引く読み方を習慣づけよう。設問文と選択肢に事前に目を通し、問われるポイントを把握しておけば、精読度向上と時間短縮につながる。

金沢大学・富山大学との比較

金沢大学は大問数3題で、読解問題2題、語数は約830～860語。設問文がすべて英語で、下線部の意味を問う問題や内容正誤などは選択式だが、内容に関する英問英答や自分の意見を25～35語の英語で書くなど、多くが記述式だ。富山大学も大問数3題で、読解問題2題。語数は約530～650語、設問形式は空所補充の選択問題が数問あるが、下線部内容を具体的に説明する問題や和訳問題など多くが記述式。

読解問題対策にこの2大学の過去問題を活用しよう。2大学とも説明・評論文読解なので、英文量の相違を利用して、段階を踏まえた効果的な学習ができる。北陸大学の読解問題は長さや内容面で読みやすく、設問が日本語かつ選択式なので取り組みやすい。慣れてきたら英文量を増やしたり、同じ英文量でも英問英答問題に挑戦したりして、徐々にレベルを上げよう。設問に関連しそうな箇所を重点的に読みがちだが、語い力増強のためにも、各段落の内容から全体要旨までの正確な理解と情報整理を常に意識して読もう。